

第8回 「持ち越し苦勞」への処方箋

何らかの症状で専門的な病院をいくつか受診し、そこでいろいろ検査を行ったけれど結局診断がつかず、「取り敢えず」の薬を出されてもやはり症状が続いてしまう…。こんな経験はないだろうか？僕はまず、身体面に異常がないことをしっかり確認した上で、前に「診た」医師達が、あまり診ていなかったであろう部分を丁寧に診せて頂く。それは『心』という部分だ。あまり気付かれてはいないのだが、人間の心は、良くも悪くも無限大の可能性を秘めた神秘の場所なのだ。

多くの“奇病”の背景には、ほぼ100%の確率で、その人の特殊な環境があり、経験があり、心の傾向性がある。人はまるで癖のように、同じタイプの落とし穴に嵌る傾向がある。その代表的なものの一つは、「持ち越し苦勞」という名の落とし穴だ。過去の出来事をいつまでも引きずり、感情をマイナスに

シフトさせて生きている結果、それが無意識のうちに“症状”として表面化するケースだ。“後ろ”が心配だからと、バックミラーばかり見ていたのでは、落とし穴を避けることは出来ない。

「日常で一番アクセスする頻度の高い感情」こそが、その人の「人生の質」を大きく左右する。“絶えず心配している人”と、“当たり前前の事にいつでも感謝している人”をみれば一目瞭然であろう。「人生で何が起きたか」ということはあまり重要ではなく、「それにどれだけ意味を与えて、プラスの行動をとったか」ということこそが、成功する生き方であることを知って欲しい。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
 米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学。最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15 **きむら内科クリニック** 麻生区 **検索**